

8人の若手芸術家による  
湖国で生まれた作品展

# Arts

## on Lake BIWA

from びわ湖・アーティスト・みんぐる

2022.9.17.sat.-9.25.sun. (会期中無休)  
10:00-16:00 (最終入場15:30)  
びわ湖大津館 (旧琵琶湖ホテル)

〈入場料〉 500円 (中学生以下無料)

〈問い合わせ〉 公益財団法人 びわ湖芸術文化財団 びわ湖・アーティスト・みんぐる事務局  
TEL 077-523-7146 ✉ [biwako-a-mingle33@biwako-arts.or.jp](mailto:biwako-a-mingle33@biwako-arts.or.jp)  
最新の情報はホームページで! <https://biwako-mingle.art/> →→



〈主催〉 公益財団法人 びわ湖芸術文化財団 〈協賛〉 文化・経済フォーラム滋賀、公益財団法人 秀明文化財団  
〈協力〉 琵琶湖汽船株式会社 〈後援〉 滋賀県教育委員会、大津市、大津市教育委員会 〈企画〉 藤原昌樹、田中哲也

photo by Hirofumi Takeoka



**AFF2**  
ARTS for the future! ▶2

# Arts on Lake BIWA

from びわ湖・アーティスト・みんぐる

期待の若手芸術家に贈られる滋賀県次世代文化賞受賞者の作品展。会場となる「びわ湖大津館」は、1934年に滋賀県初の国際観光ホテルとして建設された旧琵琶湖ホテルで、湖国の迎賓館と呼ばれるほど格式を持ったホテルでした。ホテル当時の面影が残る8つの客室が、8人の芸術家により新しい空間に生まれ変わります。扉を開けるごとに目の前に広がる、さまざまな湖国で生まれたアートの世界をお楽しみください。

〈作品展会場〉大津市柳が崎5-35

びわ湖大津館(旧琵琶湖ホテル)

掲載作品は実際の展示作品と異なる場合があります。



JR大津京駅、京阪・近江神宮前駅から徒歩約15分  
 展示会場へお車で越越しの場合、柳ヶ崎湖畔公園  
 有料駐車場をご利用ください。

新型コロナウイルス感染症対策として、ご来場の際は、入退場時における手指消毒および体温測定、マスクの着用にご協力ください。

## アート・ワークショップ開催!

2022.8.28.sun.①10-12時 ②13-15時

各回30分前〜受付/定員各30人(当日先着順)

アーティストと一緒にアート作品をつくろう!

[参加費] 500円(材料費/小学生以下は保護者同伴必須)



《Shroud or skin #8》

岡本 里栄 Rie OKAMOTO 〈絵画〉

京都精華大学芸術研究科博士前期課程洋画領域を2014年修了。人々の使用した衣服や布をその人の“抜け殻”と捉えモチーフとして描いている。人の存在を人を直接描くことなく描き出すようとしている。



《岡本太郎現代芸術賞展「虹のふもとは宝物があるの。」提供:川崎市岡本太郎美術館

唐仁原 希 Nozomi TOJINBARA 〈絵画〉

京都市立芸術大学大学院美術研究科博士後期課程油画領域を2020年修了。西洋の古典絵画技法と現代日本のサブカルチャーの表現を組み合わせた油彩画を制作。作品には少年や少女が多く登場し、神話的、物語的な世界観を創出している。



《快楽の薄膜》撮影:上野別宏

藤井 俊治 Toshiharu FUJII 〈絵画〉

京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻油画を2009年修了。一貫して絵画についての研究を行い、近年はティアラ、鏡、ヴェール、半透明のイメージなどを、箔・雲母・油絵の具等の多様な画材を用いて制作することで絵画のもつ装飾性や奥行きを模索する作品を発表している。



《五連絵画碑#1》撮影:Hyogo Mugyuda

薬師川 千晴 Chiharu YAKUSHIGAWA 〈現代美術・絵画〉

京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程芸術専攻を2013年修了。“対”の関係性を主題として、土を絵具に用いる《絵画碑》や、手に直接絵具をつけ描く右手と左手シリーズなど、作品ごとに様々な方法で独自の絵画を展開している。



《魂の行方》

大東 真也 Masaya DAITO 〈彫刻〉

京都精華大学大学院博士前期課程芸術研究科立体領域を2020年修了。主にガラス製の既製品に熱を加え、変形させた作品を発表。何十本ものガラス瓶が溶け合わさった塊のような作品と、ガラス瓶の首の伸びた作品に大別できる。パフォーマンス作品、インスタレーション作品なども制作している。



《transparent flow #1》

西川 礼華 Ayaka NISHIKAWA 〈絵画〉

京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻日本画を2013年修了。自然界の言語や時間感覚の存在を仮定し、植物との触れ合いを介してそれらの可視化を模索する。土で風化した布や、岩絵具にて絵画を制作している。



《Transit [line]》撮影:Hyogo Mugyuda

藤永 覚耶 Kakuya FUJINAGA 〈現代美術・絵画〉

愛知県立芸術大学大学院美術研究科油画専攻を2008年修了。「色」を現象による偶然性に委ね、現れる「像」を用いた作品制作を行う。近年では、スライスされた木の丸太の片面に3色で図像を刷り、木の内部を通過させ反対側に「像」を浮かび上がらせる《Transit》シリーズを発表している。



《風がきこえる》

吉田 芙希子 Fukiko YOSHIDA 〈半立体〉

京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻油画を2013年修了。自身の理想の男性像を線で描き、それをもとにレリーフのような形態の作品を制作している。美青年の理想的な存在の仕方を、物質感と“私”の関係性の中で模索している。



〈ワークショップ会場〉

大津市二本松1-1

ハッシュタグ大津京

(BRANCH大津京内)

【特別展示】

琵琶湖汽船「ミシガン」

3階ロイヤルルーム

2022.9.17.sat.

-9.25.sun.

展示協力:藤永 覚耶(運航時のみ鑑賞可/要乗船料)

みんなで作るアート・ワークショップ作品も展示するよ!

